



▲大人としての自覚と責任を抱く新成人

**平成30年白河市成人式
新たな門出、大人への一歩を祝つ**

1月7日、コミネスで『平成30年白河市成人式』が行われました。対象となる新成人は724人で、当日は578人が出席し、旧友との再会を喜び合いました。式典では、鈴木市長が式辞を述べ、成人証書を授与した後、新成人代表が「誓いのことば」を宣言しました。また、中学校時代の恩師27人からお祝いの言葉が贈られ、抽選会には、ダルライザーとしらかわんも駆けつけました。

成人式に出席できなかった方の人証書を、3月30日(金)まで本庁舎3階の教育総務課で保管しています。



▲言葉の壁を越えて、笑顔があふれる児童とALT

**エンジョイ・イングリッシュ
英語で楽しくコミュニケーション**

12月26日、市立図書館りぶらん(道場小路)で『エンジョイ・イングリッシュ』が開催されました。本格的な英語の授業が始まる前に、英語に親しむ機会を設けたもので、参加を希望した市内の小学4年生40人が、外国人の英語指導助手(ALT)5人と、インタビュールームやニューイヤーカードの作成などで学区を越えて楽しく交流しました。

市では、次期学習指導要領への移行に伴い、対象を3・4年生に広げ、5・6年生では授業時間を増やして外国語活動を実施する予定です。



▲自分たちで作った団子を飾り付ける児童たち

**伝統行事団子さし
豊かな生活への願いを込めて**

1月12日、信夫一小で『団子さし』体験が行われました。参加した3年生は、米粉をこねて、丸めて作った赤・青・黄色の色鮮やかな団子を、鯛や小判などのおめでたい飾りとともに、ミズキの木に願いを込めて飾り付けました。

団子さしは、砕けたお米も捨てることなく団子にして、豊作祈願・無病息災などを祈りながら飾ったことが由来とされ、食物を大切にすることや知恵を伝える小正月の伝統行事を次世代へ受け継ぐため、大信公民館事業として32年間続いています。



▲白河市の発展を願い鏡開き

**新春市民交歓会
希望に満ちた平成30年を迎えて**

1月4日、鹿島ガーデンヴィラ(北中川原)で『新春市民交歓会』が開催され、約510人が参加しました。鈴木市長、牧野白河商工会議所会頭、高橋ひがし商工会会長の年頭挨拶に続き、来賓祝辞、叙勲・褒章受章者の紹介、白河謡曲会楽謡会が祝辞を披露しました。鏡開きの後、高橋市議会議長の発声で乾杯し、新年を祝いました。

祝宴では、市公認キャラクターなども登場し、会場を盛り上げました。結びに、参加者全員で『万歳三唱』をして1年の飛躍を誓いました。



▲パネルディスカッションの様子

第15回全国城跡等石垣整備調査研究会白河大会の開催

1月18日から3日間、コミネスほかで『第15回全国城跡等石垣整備調査研究会白河大会』が開催され、全国から多くの参加者が集まりました。

初日は、東北芸術工科大学教授の北野博司氏が「災害と向き合う石垣修理」と題して、石垣の地震防災や災害への備えなどを講演しました。

また、小峰城跡・仙台城跡・二本松城跡・熊本城跡などの災害復旧事業の報告や、奈良大学教授の坂井秀弥氏をコーディネーターに迎えるパネルディスカッション、小峰城跡石垣の現地視察も行われました。



▲消防団によるパレード

**白河市消防団出初式
市民の安全・安心を守る**

1月7日、コミネス(会津町)で『白河市消防団出初式』が行われ、約820人の消防団員が参加しました。式では、年頭にあたり消防団員の士気を高揚させるため、統監の鈴木市長から訓示がありました。また、邊見消防団長が挨拶を述べた後、1年以上の無火災表彰も行われ、出席した団員は、市民を火災や災害から守る決意を新たにしました。

式に先立ち行われたパレードでは、消防活動を広く市民にPRするため、消防団員が本町から中町まで、勇壮に行進を行いました。